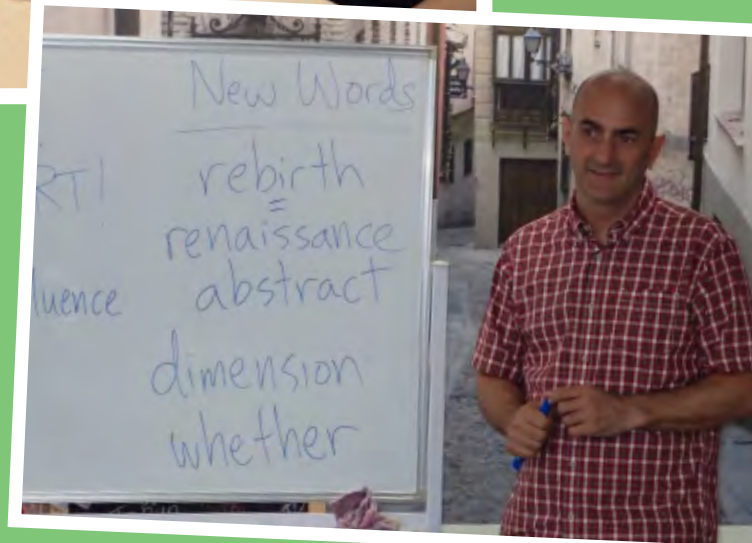


舞台は世界だ!

Go! Global



2016 KGM
グローバル人材
育成プログラム
レポート Vol.7



**KANTO GAKUIN MUTSUURA
JUNIOR&SENIOR HIGH SCHOOL**

ますます進むグローバル化は、加速するボーダーレス化とも言えます。中高一貫校での6年間は、入学から10年後、さらには20年後の社会を見据えて準備する大切な時と場です。ボーダーレスに向かう社会を早期に意識し体験する学習環境づくり。関東学院六浦は60周年を迎えた今、「若く純粋な想いを道へ.....将来を世界に繋ぐこと」が新たな使命と考えています。

校内英会話教室「Olive Junior」

校内英会話教室「Olive Junior」をスタートさせて3年目。現在、87名の生徒たちが受講しています。

この「Olive Junior」は、さらなる英語コミュニケーション力のアップと、生徒たちの発話の機会を増やすことを目的として、中学生低学年を対象に始められました。何よりも良いのは、授業が終わったあと、部活動の前にレッスンが受けられるということ。外部の英会話教室に比べて時間を有効に使えます。また、クラスは10人程度の少人数制。授業料も4回のレッスンで7,000円と格安です。

今年度は上級者向けSクラスが2クラス、英検3級を目指すレベルのAクラスが2クラス、初心者対象のBクラスが5クラス開講しています。Sクラスは本校教員のショーン先生とジェイミー先生が担当し、AクラスとBクラスは、UCデイビス研修やKGM English Campなどで本校がお世話になっている「株アイエスエイ」所属のジェシー先生、ケニス先生、ルビー先生が担当しています。感受性の柔軟なうちに、カナダ、アメリカ、ジャマイカ、ガーナと、いろいろな国の先生方から学ぶことでグローバル体験をし、これからの社会で必要不可欠な英語力を身につけて欲しいと思います。

今日も放課後の校舎には、英語での楽しい会話と笑い声が響いています！



I find Olive Junior to be a great program. This is because, on the whole, the staff, teachers and students are very friendly and hospitable. My lessons in English have been very interesting. I would say that when the English lessons began, it was quite difficult for the students to flow and understand but after one or two lessons, they are now improving in English speaking. They can now pronounce certain words in English without being shy, which for me is very encouraging as a teacher. I am already beginning to fall in love with the students since the lessons are carried out in a fun environment allowing them to express themselves freely. There are more prospects and room for improvement with regards to their communication in English.

Ruby Mensah



Olive Junior provides a great opportunity for students to communicate extensively using the English Language. It does this by providing them with a fun, interactive learning environment where the primary focus is NOT how well you speak BUT how much you utilize every chance to speak – communicating freely using English. The idea of having a small student to teacher ratio is very beneficial to those students who struggle to keep-up in the regular classroom setting. In the Olive Junior Program, students are given more one to one opportunities with their teacher. This helps the teacher to assist each student to fine-tune their weak areas such as pronunciation, intonation and enunciation.

While some students are more motivated than others, all students who participate leave learning something new and are more confident in their ability to communicate in English than when they first joined the program.

The Olive Junior Program has made a steady start so far and I am looking forward to continue working with the students to help them achieve their language goals.

Kennise Watson



This is a great program for the teacher and students. One of the reasons why is that the atmosphere and classroom environment is more relaxed than a regular English class. This is because we use a combination of more games and different speaking activities so that students can enjoy learning without any pressure of a test or exam.

Students can experience English in a fun and interactive setting without the worry of making mistakes or getting a grade on their performance. I feel like the students all have a positive attitude and are trying their best to interact with me. Even though some students might be a little hesitant or shy to speak in class, I want them to know it is OK to make mistakes and they should not be afraid to speak. Thank you for the chance to participate in the Olive Program and I hope the students will succeed with all of their future goals.

Jesse

数ある私学の中でも、ひときわ際立ったグローバル教育を展開！

関東学院六浦中高では、グローバル時代に活躍できる人材作りを目指して、早い段階からかなり革新的な取り組みを行ってまいります。普通の英語授業では中学1年次より全授業外国人講師が入り、ICTを効果的に活用して英語のみの授業を展開。その授業の効果を一層高めるために、希望者に対しより密度の濃いコミュニケーション活動を目指した放課後スクールOlive Juniorを提供しています。希望する生徒は夏休みに3日間に渡る英語合宿「KGM English Camp」を経験。海外研修も英語圏、アジア圏と数多くの機会を提供しており、さらには海外大学進学への準備もサポートしています。グローバル教育を標榜する学校は数多くありますが、6年間を通した、生徒の“生きた英語力の養成”と“グローバル体験”の提供において、有言実行を貫かれ、ひときわ際立ったグローバル教育を展開されている学校です。

(株) アイエスエイ 国内研修部
部長 寺澤ますみ

Who Is Your Favorite Teacher?

6月30日のOlive Junior Sクラスのレッスンでは、「Who Is Your Favorite KGM Teacher?」というテーマで、生徒が先生の似顔絵付きでコメントをまとめていました。1年生の宍戸杏珠さんの「My favorite KGM teacher」は数学の永井杏先生の様です。



My Favorite Teacher

My favorite KGM teacher is Ms. Nagai. She teaches us math. I really like her because she is so cute, smart and kind. I like taking her class because it is fun and I can understand her lessons. Because of her, I have learned how to do Junior High School math. Thank you Ms. Nagai!

By Anju Shishido



Profile

Thank you very much Anju! Your words and picture are very kind. Actually, this is my first year teaching at KGM. Before this, I was working as ground staff at International Narita Airport. That's why I can speak English! My main job was looking after tourists. The job was very hard but so nice because I was able to meet many people from around the world. With English, you can do so many things!

By Anzu Nagai



2016年度1学期は、4人の留学生在本校で学んでいます。カティアさん(スウェーデン)、サラさん(イタリア)、ムニー君(カンボジア)、ソックリンさん(カンボジア)です。みんな部活動にも参加し、充実した学校生活を送っています。

カティアさんとサラさんは10ヶ月の留学を終え、6月に帰国しました。2人とも嬉しいことに、「また日本に来たい!」「日本の大学進学を考えています。」と答えてくれています。最後に感想を書いてくれましたが、日本語の上達ぶりには感動しました。それぞれの国に帰ってからも、活躍を期待しています!

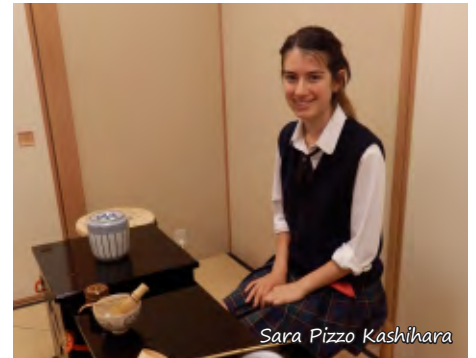
私の10ヶ月の留学生活は、あっという間に終わりました。いろいろな所へ行ったり、美味しい食べ物を食べたり、友達と写真を撮ったりして本当に楽しかったです。しかし、日本にきた当初は友達もできず、2年間も勉強してきた日本語も上手く使うことができず寂しく辛い日が続きました。カルチャーショックやホームシックになったこともあります。自分の国に帰りたい、と思ったこともありました。その度に、スウェーデンの父や母が励ましてくれました。だから、私はあきらめてはいけなかったと思います。私は弓道部に入りました。友達も沢山できて、日本語を教えてもらったり、日本の文化や習慣を教えてもらったりしました。大変なことは沢山ありましたが、友達とホストファミリー、そしてスウェーデンの家族のサポートで乗り越えられたと思っています。スウェーデンに帰ったら、私は日本の素晴らしさを皆に伝えたいと思っています。

Katja Gaef-Persson

ここまでグローバル化が発達している中でも、文化を大切に、保とうとしている日本が、私は好きだ。たとえば、学校に制服で通うことは私にとっては独特であり、部活(茶道部)に入るのも初めてであった。茶道は日本ならではの芸で、毎週の稽古が楽しみであった。私にとってなによりも学校で特別な時間は、お弁当を食べる時であった。今までは家で食べていたのが、ここではホストマザーが毎朝作って下さったオシャレなお弁当を楽しく、おいしくいただくことができた。とても感謝している。

今ではとても似ているとも言われるホストシスターとは、ほかにもたくさんの思い出がある。正月に紅白を見ながらおそばを食べたり、花見へ行ったり、大変お世話になった。留学中、ホームステイだったからこそ、この生活に深くなじむことができたと思う。

この留学は、もちろん日本語の勉強にもなったが、第一に自分自身をもっと深く知り、母国



Sara Pizzo Kashihara

と違う文化とふれあうことで「違い」の大切さを感じることができた。この経験をいかし、これからも頑張っているいろんなことに挑戦したい。さまざまな方からたくさんのサポートをもらった。ありがとうございました。

Sara Pizzo Kashihara

カンボジアから来日し、4月から本校で学んでいる留学生のムニー君とソックリンさん。慣れない環境でも一生懸命に勉強し、日本語も日々上達しています。3月までの1年間、楽しく充実した留学生活を送ってください!



SOY SOKLIM (化学部にて)



CHHORN SOVANMUNY (卓球部にて)



Katja Gaef-Persson

留学のススメ



こんにちは。この春より、関東学院六浦中学校・高等学校の英語科教員になりました。竹之内葉子です。この度は、この紙面をお借りして「留学のすすめ」というテーマで筆を執ることになりました。しばしお付き合いいただければ幸いです。

私は、幼少期より外国や外国語に強い憧れをもっていただと思います。まだ私がベビーカーに乗っていた頃から、NHKの「えいごであそぼ」という子ども向けのテレビ番組に感化され、病院で母を待つ間、祖母に向かって「英語(を模倣した宇宙語)」を話していたそうです。中学受験に合格したら海外に連れて行って欲しいと母親に頼み込み、念願の日本脱出計画第一弾として中学校入学前の春休みにニューヨークへ行きました。中学3年生の夏には単身でバンクーバーへ渡り、3週間ホームステイをしながら語学学校に通いました。そして、日本の大学院を卒業したあと、改めてイギリスのグラスゴー大学大学院へ進学しました。

長くはないけれど短くもない海外生活を経験し、さらに1年半という長期間のイギリス留学を終えた今、「成長」についてよく考えます。「成長」というと皆さんはどういうことを想像するでしょうか?私は、「成長」とは「今までに知らなかったことを知る」、「今までできなかったことができるようになる」など、何か今まで自分になかったものを「身に付ける」、そのことによって自分自身ももっと「大きくなる」ことだと思っていました。もちろんそういう面があることは間違いありません。

しかし、今では私はまったく別の考え方をしています。すなわち、私はイギリス留学を経て、留学前よりもはるかに自分自身が「軽く」なったと感じています。それまでに私に身に付いた「価値観」や自分を護っていた「こだわり」のようなものが一気にそぎ落とされ、「自由」になったような感覚を覚えるのです。これも一つの成長のかたちなのではないでしょうか。

また、その感覚はまさに「グローバル化」を体験し

ているとも言えるでしょう。グローバル化とは、多種多様な価値観が渦巻くこの世界で、自分自身が「相対化」される、すなわち自分の価値観はthe only one なのではなく、one of themであることを知るということです。そして、そのまっさらな状態から自分自身はどのように考え何を選択しよう生きていくのか、その never-ending task に関わっていくということです。皆さんも、日本国内外様々なところでたくさんの人やものと出会い、たくさん「大きく」なったり「軽く」なったりしてください。私もそのお手伝いができればと思っています。



グラスゴー大学：ハリウッドの撮影でも使われたキャンパス

校長先生のメッセージ

関東学院六浦中学校・高等学校は、2014年度から教育の地平線を広げ、世界を視野に「Go! Global」と唱えてきています。「10年後、20年後を見据えての教育」を考え実践するものとし、字句通り10、20年後に必要な力の「素」を育む教育を展開しています。

感受性が「柔軟」なうちに「気付き」を多くする。それまでの環境の中で培われてきた考え方や価値観を一度静かに解きほぐす。特化されたカリキュラムと、身近な社会と世界での実学で、必要な力の「素」を育てます。

今さかんに叫ばれるグローバル化。グローバル化への対応に必要な力とは、従来の学力観での力とは違います。知識や知能(IQ)の面だけではなく、豊かな知とともに好奇心(CQ)と熱意(PQ)との総合力と言われます。国は学校に、グローバル人材の育成(グローバル人材育成推進会議、2011年内閣府)を強力に求めてきています。IQ、CQ、PQに裏打ちされた課題解決力、コミュニケーション能力、協調する力の育成です。しかし、これまでの学力観に深く根を張る教育の考え方は、グローバル人材として求められる力とはどのように育てるのか、育った力をどのように評価すべきなのかと苦しみます。

とは言え、グローバル化への対応を考える際に、何よりも先に意識しなければならないことは、コミュニケーションの力の獲得です。否応無くグローバル化が進む中、子どもたちは、生きていくその場で対等にして自立的に参加するために、十分に自力で意思疎通ができなければなりません。したがって、そのツールとなる英語の習得は、言うまでもなくすでにcanではなくmustになっているのです。

そのmustの観点の一つは、経済成長が著しいアジアで進んできた教育改革と変化です。アジアでは欧米の教育システムを取り入れたグローバル化の教育が進んでいます。背景には宗主国の影響があります。教育システムや教授法や学習の方法は、人材育成の観点からそのまもの introduction (取り入れ) や implant (移植) です。

一方日本は、経済的優位性を誇り続ける中、とりわけ高度経済成長期から教育は固有な特色を示し、むしろ国際的には遅れをとったと言えます。アジア諸国の教育システムは、1990年代後半から明らかなる差異を示してきました。これから活躍する若年人口の圧倒的に多いアジア諸国では、教育イノベーションはすでに日本を超えているとも言われています。アジア地域への日本企業の進出や活動の重点化がますます進む中では、日本国内での人材育成は、いったいどうあるべきなのでしょう。

端的に言えば、まだ世界を知らない子どもたちに代わって学校と保護者が、勇気を持って教育観を大胆に考え直す必要があります。10年後に社会

に出る子どもたちには、ワールドワイドな視点からの力を実学的につけ、世界に飛び出せる力を身につける必要があります。

同時に、国内のグローバル人材の登用の浸潤が進み、雇用環境が変化するというのも考えなければなりません。新たな意味で国内での「グローバル化」を真摯に考えなければなりません。国内の雇用環境のボーダーレス化が進む中では、英語の運用力の必要性は、これまでの世代の経験のレベルを超える必然のものとなっています。国際言語は最低限でも一つ、その第一言語としての英語の習得はいっそうの必然なのです。

六浦中高では、英語は「教科」と思っはいけない、「生きるための力そのものの学習」と力説しています。日本国内で、「日本語は好きではないから使わない」がありえないように、「英語が好きか嫌い」を論じる悠長な選択などはありえないという状況が、ごく当たり前になる。そんな時代に子どもたちが生きていくわけです。

ただし、社会のグローバル指向の程度を見る指標として、短絡的に英語教育や英語力だけを論じることは適切ではありません。英語が堪能でも必要とされるコミュニケーションや関係形成の力が無ければ、人材として必要とはされません。しかし、グローバル指向の高低と英語力の水準には一定の相関があります。たとえば日本と韓国です。TOEFL受験者の平均点において韓国は日本を上回っており、その格差は年々大きくなっています。日本語と韓国語は文法的構造がよく似ており、英語との言語学的構造の差異はともに大きく、英語の学習にはともに大きな苦勞を持ちます。それにもかかわらず、TOEFL-iBTでの換算値では、今や日対韓は70-85と15点もの開きがあります。GDPに占める貿易依存度が高い韓国はグローバル指向が高く、英語力の水準も高いと言われてます。少子高齢化で移民が増えない限り人口減少が続く、内需に大きく依存できなくなるかもしれない日本は、ある意味で、韓国に近未来のモデルを見るようです。日本の英語力の水準も上げなければなりません。

大人が子どもたちの将来に対し真摯に考えなければならぬことは、一つ目は、日本はすでに人口減少の流れ(昨年度の総務省の見解)に入り、これまで内需産業といわれていた業界もアジア諸国に活路を見出し、その活動拠点をアジアにシフトさせていること。二つ目は、国内の就職環境も大企業から中小企業まで、取引を海外に持つ企業が外国人留学生などのグローバル人材の登用を加速していること。三つ目は、ICT、人工知能、ロボットがますます発展し、職業種そのものの盛衰がこれまでにない速さで進んでいくこと、です。

これらを考えれば、…もちろんそれは人生の選択によっても変わりますが…、学校での「学び」のあり方は今までのものでいいのか、何に拠って大学選びをするか等も含め、これまでの教育観や国内だけの視野から身近な展望で子どもたちの10、20年後を考えていけばいいのか、という疑問に突き当たります。

したがって、社会に出る10年後までの6年間を過ごす中等教育では、学校自体が、どこを見るべきか、そして何を教育の実践の中に織り込んでいくのかということがたいへん重要になります。教育が、ガラパゴス化してはいけません。子どもたちには、どこにしよう、生きていくには、「何が必要なのか」、「何をすることが必要なのか」、「自分はどうすべきなのか」、「何を平和的に求めていけばいいのか」を自立的に考えて実践していく力が必要です。教育は、その実践力の育成を芯に持たなければなりません。

単なる知の集積作業だけではなく、知を実践に生かす力の獲得が必要です。それにはコミュニケーションの力やコミュニケーションしようとする意欲が関係します。コミュニケーションでは、独善と独断や独りよがりはいけません。したがってコミュニケーションには、先ず関係性の中での「気付き」と「発見」が大事です。この気付きと発見への仕掛けが学校教育の大きな要素になるわけです。その次に、その気付きを行動へ発展させる力の育成が大事になります。そして、行動を助け実現させるためのコミュニケーションの力、言語運用力の習得が必須となります。

言うには及ばないことですが、学校での教育としては、人間的な面、すなわち精神性や心の面での成長をしっかりと支援する土台、教学の理念が大切です。建学の精神をキリストの教えに立てる関東学院六浦中学校・高等学校は、生徒たちが様々な学習や活動の中で自分の弱さに気付くこと、そして互いに弱い存在であることを知って隣人愛の意味を感じることを、これらを大切な観点としています。これらは入学直後から語られ、聞かされ、考えさせられていきます。ここでも「気付き」が大切です。人間の本性に気付き、その気付きに基づいて生き方を見つめなおす。このことで、逆に、逆境にも簡単には倒れないたくましさも培ってゆきます。コミュニケーションの基に、人間、生き方についての洞察が無くては意味がありません。

「10年後、20年後を見据えての教育」でフレームを考え、感受性が「柔軟」なうちに、「気付き」を多くする。それまでのものの見方や価値観を一度静かに分解し、校訓「人になれ 奉仕せよ」のもとで世界に向けて再構築する。そんな教育の仕掛けを日常の学習と身近な社会や広い世界での実学の中に用意しています。これが、六浦の唱えるGo! Globalです。



関東学院六浦中学校・高等学校
校長 黒畑 勝男

2016年度 関東学院六浦のグローバル教育 ～10年後、20年後を見据えて～

- (1) 感受性の柔軟なうちにいろいろな体験から学び、自分が世界とつながっていることを知る
- (2) グローバル社会で活躍するために、ツールとして必要不可欠な英語力の育成

様々な希望者参加型行事(海外研修・留学など)を実施しています。

ネイティブ教員による授業で4技能を育成します。

2016年度希望者参加型海外研修

1年(中1)	2年(中2)	3年(中3)	4年(高1)	5年(高2)	6年(高3)
夏期集中英語研修 KGM English Camp 3月			キャリア直結型カナダ研修 Calgary 3月		
	カナダ研修 Victoria 8月				
	オーストラリア・タム留学 Queensland州立学校 3学期				UCデバイス その他の海外研修 3月中旬
	オーストラリア・タム留学 Melbourne私立学校 3学期				
	マレーシア・タム留学 マレーシア・インターナショナルスクール(マスorニライ)				
	フィリピンセブ島 語学研修 8月・2月				
	カンボジア・サービスラーニング研修 12月				
		台湾大学視察(台湾留学サポートセンター主催)夏・冬・春			
		アラスカ研修(理系研修) 2月			
		ニュージーランド留学(3ヶ月～1年)			
		保護者対象 教育視察ツアー			

2016年度英語の授業展開(中学生)

学年	組	グレード	時間数						土曜日 指定制補習 (苦手科目)	土曜日 希望制補習 (得意科目)
			1	2	3	4	5	6		
1年	クラス単位	S	ネイティブと日本人のTT クラス単位(5クラス)					日本人	日本人 3クラス	ネイティブ 1クラス
		S	ネイティブによる取り出し授業 1クラス							
2年	123組	S	ネイティブ					日本人		
		A	ネイティブ					日本人		
		B・C	ネイティブと日本人のTT					日本人	日本人 4クラス	ネイティブ 1クラス
456組		S	ネイティブ					日本人		
		A	ネイティブ					日本人		
		B・C	ネイティブと日本人のTT					日本人		
3年	全クラス	S	ネイティブ					日本人		
		A1・A2	ネイティブと日本人のTT					日本人	日本人 3クラス	ネイティブ 1クラス
		B1・B2・C	ネイティブと日本人のTT					日本人		

*4年生(高校1年生)で週に1時間ある英語会話の授業は、40人のクラスにネイティブの教員が4人で担当します。

